

「じゃがいものうち」通信 NO.54 2007.9.14

～ 障害者と共に歩む仲間たち～

NPO法人「じゃがいものうち」

〒891-4404 鹿児島県熊毛郡屋久町尾之間136-6

Tel./Fax/0997-47-3588 E-mail/npo-jaga@po.minc.ne.jp

URL:http://www.minc.ne.jp/npo-jaga 代表 松田 正

じゃがいものうちの目指すもの

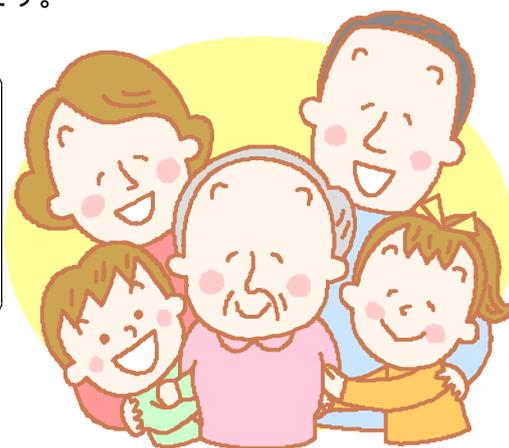
屋久島で障害を持った人たちが生活するには、何が必要なんだろう。「じゃがいものうち」を立ち上げた当初は、障害者施設の何もない屋久島では、将来的に日中活動の場として、作業所が絶対に必要になるだろうという思いで活動を続けてきました。ところが障害者に対する福祉サービスにも、いろいろな形があることがわかってきました。

すでに授産施設などを運営されている事業所などにも話を伺っていると、「デイサービスの方が使い勝手がいいよ」という情報も頂きました。

18年前福岡で宅老所『よりあい』が始まったとき、やがては屋久島にも必要になるだろうという思いもあって、宅老所の一つの形・障害者も受け入れている“富山型デイサービス”に注目をしていました。最初は大きな施設での介護に疑問を感じていた職員が退職し、利用者の要望をくみ取り「困っている人、よっといで！」という形で始まった自主的な福祉サービスでした。その後、介護保険制度が始まり、その制度の使える部分は使い、制度に乗らない障害者福祉の部分は構造改革特区という形で、同じ事業所で高齢者福祉と障害者福祉両方のサービスを行っていたのが“富山型デイサービス”です。

それを経済効率の面から構造改革を進めていた行政の要望と、自宅での生活に近いノーマライゼーションという方向にも合致するというので、介護保険制度で地域密着型サービスの一つとして、今年度から小規模多機能型居宅介護として制度化されました。これからの、介護の必要になった高齢者の過ごし方のなかで、小規模多機能をもっともふさわしいと思います。「小規模」というのは家族に近い人数ということ、「多機能」とはいろいろな種類のサービスがあるということです。自分に介護が必要になったとき、こんなところで介護を受けたいと思うような事業所を目指しています。その上、高齢者だけではなく、かつて富山で行われていたような、赤ちゃんからお年寄りまで、困ったときには誰でも利用できるようなところが目標です。

赤ちゃんからお年寄りまで 障害のある人もない人も
あなたの思い 私の考え みんな違うけど
あなたの喜びが私の笑顔に 私の悲しみがあなたの涙に
一生懸命のあなたと 助けたり助けられたり
この家を そんな暖かい思いが溢れる みんなの居場所に (太田)



こんな思いの詰まった、“みんなの家”を目指しています。 (松田)

小規模多機能とは

巻頭言で書いたように、2007年度から始まった介護保険の地域密着型サービスの一つです。在宅で介護の必要になった高齢者に対して、一つの事業所で、日中の必要なサービス(デイサービス)を受けることを中心にして、時には訪問してもらったり(ホームヘルプサービス) 場合によっては短期間宿泊(ショートステイ)できるところです。

受けたいサービスが、デイサービスやホームヘルプサービス、ショートステイと変わっても、同じ事業所で顔なじみのスタッフにより、そのサービスを受けられるという利点があります。我が家の延長と考えるとわかりやすいと思います。 (松田)

今の「じゃがいものおうち」出来ること

介護保険上の事業所として立ち上げられるまでは、自主事業という形で、週一回のデイサービスから始めたいと思っています。自主事業というのは、補助金や事業費を他から受けない（受けられない？）形での事業ということです。そのかわり制度にしばられず、自由に行えます。

介護保険制度では費用の1割の負担で利用できるのですが、かといって利用者に全額負担してもらうのには無理があります。介護保険に移行したときの連続性も考えると、利用料は制度上での利用者負担を基準に考えたいと思います。自主事業の間、残りの9割はどこからも入ってきません。つまり赤字覚悟の自主事業です。

それでもこれからの屋久島には、どうしても必要になるサービス（社会資源）という、熱い思いで事業を開始したいと思います。介護保険制度は3年ごとに見直しがあり、計画的に進められています。今は第3期の2年目に当たりますが、「じゃがいものおうち」では、第4期の始まる2009年度に、制度上の小規模多機能居宅介護事業所としての開設を目指しています。場所は「じゃがいものおうち」の隣を借り受けて、畳の部屋を設けるなど、家庭の雰囲気になるように改装する予定です。

そのためにはこの事業単独で改装資金として約350万円、利用者の介護度と人数により変わりますが、月単位でプラスに転じる2009年10月までの運転資金としてピーク時で約270万円必要です。「じゃがいものおうち」が現在のところ自己資金として100万円あります。不足分（差額520万円）については新規の事業や、今までやっていた事業の拡充、寄付金や出資金（配当はありません）の募集などを考えています。

（松田）

小規模多機能準備室より

9月9日までに12回の会を持ち、建物の間取りの検討や運営の試算などを行ってきました。また共通認識を持つためにも、介護に対する思いも話し合ってきました。

10月1日の定例理事会には、臨時総会資料の原案を提示できるように準備を進めています。なお臨時総会は、11月上旬に予定しています。

推薦図書・ビデオ

- 『介護基礎学』 医歯薬出版 竹内孝仁著（共通認識を育てるためスタッフの必読書）
『新しい介護』 講談社 監修・著者 太田仁史 三好春樹（具体的な介護マニュアル本）
『ぼけてもいいよ』 西日本新聞社 村瀬孝生（老いの形と介護のすがたを書いたノンフィクション）
ビデオ『ともに』（地域に住む色々な人達が集い支え合う場 ディケアハウス「このゆびとーまれ」のドキュメント）
ビデオ『親子じゃないけど家族です』（富山型民間ディケアハウス「にぎやか」の実態に迫った愛と感動のドキュメント）*ビデオは「じゃがいものおうち」にあります。

行事報告

交流会

6月28日（木）安房のしゃくなげ未来館にて、「しゃくなげ未来館、屋久町手をつなぐ育成会、じゃがいものおうちの交流会」を行いました。

体育館では、みんなから呼んでもらいたい名前をじぶんで紙に書き胸に貼りました。他の人から離れて遠くにいる人、隣の人と顔や名前を見合わせたり、名前を呼び合っている人など様々で、みんながそろろうのを待ちました。続いて、コミュニケーションゲームでは、自由に歩いて出会った人と人差し指を合わせて「アウチ！」と言いつつゲームや、誕生日を教え合いながら誕生月順に縦に並ぶゲーム、グループに分かれてインタビューするゲームなどをしました。お話ししたり歩いて身体が触れ合ううちに、初めは恥ずかしがっていた人も思わず笑顔がこぼれたり、少し緊張がほぐれたりしているようでした。風船バレーでは熱戦がくり広げられ、汗びっしょりかきました。お昼になったので未来館に移動し、家族の方々が朝早くから来て作って下さったカレーライスやお団子をみんなでおいしく頂きました。それぞれの会の活動を紹介し合ったりして、お互いに初めて知ることもたくさんあった一日でした。

（金子ゆかり）



尾之間温泉祭

昨年都合により中止になった**尾之間温泉祭り**。7月28日(土) 今年2年分の思いのこもったお祭りです。パレードで練り歩いた「ねぶたドラゴン」がゲートに鎮座し、多くのお客さんを出迎えていました。ステージでは地元中学生バンドによる演奏をオープニングに、太鼓演奏、歌と踊り等々……。まるでフーテンの寅さんに出てくる、ほのぼのとした祭りのシーンと重なりました。出店の方も盛況、多くの人で賑わっていました。

「じゃがいものうち」はといいますと、いやはや目立っていますねー! 「ジャガコロ、綿菓子、かき氷」今や祭りの三種の神器といわれております。フーセンヨーヨーや三角くじのコーナーも同じく、買う側よりも売る側の方が楽しそうです。

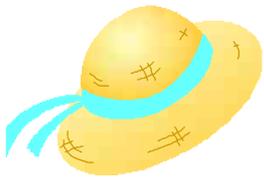
今年特に大原さんを中心に有志によって作られた「じゃがいものうち」オリジナルハッピーに身をくるみ、皆さん気合いが入っております。「大原さんありがと〜!」



商品はすべて完売。この売り上げが新しい事業に役立ってゆくと思えば今日の汗は気持ち良い。

そこで一句 「出店が いのち育む 夏祭り」

参加者の皆さん、暑い暑い一日本当にお疲れ様でした。 (楯)



忘れ物のお知らせ

温泉祭りの時、忘れ物がありました。 折りたたみ傘(薄い赤紫色)

麦藁帽子

いずれも「じゃがいものうち」に保管しています。心当たりのある方は拠点まで。

「キャンプに参加して」



夏といえばキャンプ!! ということで、『じゃがいものうち』の毎年恒例の夏のキャンプに参加させていただきました(8月25日・26日 栗生屋久島青少年旅行村)。私は会員ではないのですが、(今年から?) 会員外でも300円で参加できるという仕組みになっていたの、わりと気軽に参加することができました。カレー作りでは、皆で仕事を分担してがんばり、おいしいカレーができあがりました。今まで、こういうキャンプで食事を作るのは苦手でしたが、最近バイトでよくバーベキューの準備をするおかげで、気楽にやれるようになっていくことに気付きました。夜のキャンプファイヤーでは、大人が子どもみたいになって、皆で歌ったり、踊ったり、花火もしました。朝ご飯の準備のとき、皆でオニギリをにぎりました。そのときに「三角オニギリをにぎれない、にぎったことがない。」という方が何人かいて驚きました。私にはぎれるけれど、特に上手というわけではありません。でも「教えて!」と言ってくださる方がいて、それがなんだかうれしかったです。飛び入りの私を快く受け入れてくれたみなさま、どうもありがとうございました。(谷本 渚)

プルトップを集めよう!

53号でも呼びかけましたプルトップ集め、「じゃがいものうち」にある回収箱には少しずつですが増えています。引き続き周りを見わたしてプルトップを見つけましょう。車椅子までまだまだですよ~! 皆様の心掛けをよろしく願い致します。

じゃがいも植つけ

日時 10月28日(日) 10時

場所 尾之間新里自動車の下

持ち物 軍手、お弁当、飲み物、包丁、小さなバケツ

子持ちギャルの《ひとこま見聞録》

はぁ～ 「おんな心と秋の空」とはうまいことをいったものだ。スカッと晴れたかと思えば、その晴れ間は3日ともたない。しかし、私の心はそんな生ちょろいものではない。どうも雲がわき立ちやすいという欠陥（器が小さく、すぐに沸騰、蒸発する）が私にはあるらしい。真夏の空にわき上がる雷雲、いやいや、台風並みに発達する場合もある。その前兆を予期しないと、ぬれるだけではすまされない、大変な被害を被ることになります。しかし、進路はたいてい決まっていますのでご安心を。自分がその進路上にあると不気味さを感じる方は、日頃からの備えが大切です。

てなことはさておき、大変申し訳ないです！このところ本当に忙しく、『じゃがいものおうち』にもろくすっぽ顔を出しておりません。キャンプにもキャンプファイヤーだけにしか参加できませんでした。晩ご飯作りでお疲れの皆さんを、フォークダンスでムチを打ち、アブラハムでとどめを刺したのは私です。が、その後の筋肉痛は私のせいではありません。来年のために日頃の鍛錬が大事ですよ。そうそう、私のスイカ割りは見事だったでしょ！ダンナと喧嘩の最中だったからね！（鈴木裕子）

喫茶コーナー

～出会えて、ありがとう～

喫茶で働いてると多くのお客さんと出会うことができます。もともと人好きの私にとってはとても嬉しい事です。一緒に働いている浩二さんも無類の人好きで、どんどん知り合いが増えていきます。

彼は屋久島に来て3年間で知り合いが27人出来ました。喫茶で働くようになって1年が経ちますが、なんと知り合いが116人に膨れ上がったそうです。しかも、赤ちゃんから年配の方までバラエティに富んでいます。私も多くの方と良い時間を過ごさせてもらい、教わることも随分あります。そんななかで、「此处があって助かる、来るのが楽しみ。」と言ってくれるお客さんがいらっしゃいます。尾之間診療所にバスで通院している仲良し二人組みのおばさん（70歳代の方と80歳代の方）です。1時間ほどのバス待ちの間に楽しそうにお茶をして、野菜や掘り出し物の衣類を買って帰られます。とてもお元気なのですがお一人の方は膝を痛めていらっしゃいます。帰りのバスに乗るときに道路を渡らずに店の前でバスに乗れるととても楽なのです。そこで浩二さんと私の出番です。バスを待ち構えていて手を振って店の前で乗せてもらいます。無事バスに乗っていただいて仕事が終わります。喜んでいただけるとこちらでも嬉しくて、喫茶の仕事のやりがいを感じる瞬間です。そして、浩二さんの口癖がでます。「ええ仕事やわー。止められんなあー。」同感、同感。（松本 活栄）

畑下さんが復帰されました。（金・土） ゆかりさんごくろうさまでした。

コーヒー券について じゃがいものおうちでは11枚で3000円のコーヒー券を販売しています。コーヒー1杯分がお得になります。このコーヒー券はその他の飲み物にも使えます。ただしお釣りは出せません。ごめん。

じゃがいものおうち会員用伝言板について

ホワイトボードの伝言板の場所が変わりました。スタッフルームの入り口正面の良く目立つ場所です。会員同士の連絡にどんどん使ってくださいね。



会員の更新、新規加入ありがとうございました

（50音順 敬称略 9月10日現在）

佐々木澄江 高田忠幸 日高広啓 日高冬子 藤島薫 藤山倉作

新会員紹介

高田忠幸さん

一湊で珈琲店を営んでいます

感謝録

（6月21日～9月13日 敬称略）

日高典子 柄沢牧子 岩川淳夫 松田正 飯田かおる 太田久美 岸トモ子 関田彩子 神野建設
高見澤義男 及川三子 石川美那子 松本裕子 笹川たづ子 高瀬よし子 楯陽子 川東和広 鈴木忍
ありがとうございました。

編集後記

今年の夏は暑かった。9月中旬の今も暑いのですが朝晩にはチラッと秋を感じさせています。小規模多機能の動きについては皆様により解りやすく、会の動きをお知らせしたり 関係する情報などを提供して行きたいと思っています。（楯）